

## 序

この度、『神奈川県立図書館紀要』第11号を刊行することとなりました。

さて、昨年度来、神奈川県全体で取り組んでいる緊急財政対策においては、県立の図書館の閲覧・貸出といった基本的な機能の廃止が検討の対象となり、また、県立図書館と川崎図書館の統合や移転、建替えが検討の対象となっており、県立の図書館にとって抜本的な見直しが検討されています。

県立の図書館の将来の姿は、まだまだ予測が困難な状況ですが、図書館としては、立ち止まることなく、県民サービスの向上を目指し、あるべき将来像を模索していかねばなりません。

今、地域図書館である市町村立図書館には、情報拠点として、住民の課題解決に繋がる役割が注目され、また、多数の住民が利用する施設として、地域課題の解決に取り組む場としての役割も期待されています。

一方、広域図書館としての都道府県立の図書館については、それぞれの地域の状況によって事情が異なりますが、神奈川県では、地域図書館を支援する役割と共に、専門的な資料そして知識や情報を県民に向け発信する役割を果たすことこそが使命であると考えています。

そこで、神奈川県立の図書館では、知的価値を産み出す図書館を指向して、資料を単に閲覧・貸出として県民に提供するだけでなく、館内での時宜に合わせた展示や所蔵資料のアーカイブとしての提供、リーフレットやインターネットを用いた資料に関する情報発信、公開講座やサイエンスカフェといった講演会の開催など、様々な手法を用いて、新たな価値が見出せるよう積極的に取り組んでいるところです。

この紀要は、こうした取り組みのひとつとして、若手、中堅の司書職員が、日々の業務に関連するテーマを選択し、執筆したものでありますが、それぞれの論文には、所蔵資料を調査研究することによって、資料価値を付加して県民に発信する役割や、図書館の現状や課題を分析し、神奈川県立の図書館の将来像を

模索する役割が期待されています。

また、図書館職員の専門性が注目される中、この紀要の執筆・刊行を通して司書職員の資質向上に繋がることも期待されています。論文には不慣れなところも見受けられますが、司書職員の熱意により、初めて2年連続で刊行することができました。

県民の皆さまへの発信として、幅広い方々にご一読いただければ幸いです。併せて、県立の図書館、そして司書職員に対するご指導、ご支援もいただきたいと考えておりますので、よろしくお願い申し上げます。

平成26年2月

神奈川県立図書館・神奈川県立川崎図書館  
館長 平野 達夫